

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700550		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホームミューズの空高崎(3号館)		
所在地	宮崎県都城市高崎町大牟田6454番地		
自己評価作成日	令和元年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和1年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高崎町の運動公園の近くにあり、国道沿いから少し離れた静かな場所に位置したグループホームです。
 春は、グループホーム東側に桜並木があり桜を鑑賞しながら食事を行っています。
 ご利用者様一人一人の要望にお応えし各居室の配置や生活環境に必要な生活の場の提供を行っています。
 週二回のレクレーションを実施し、他ユニットのご利用者様と触れ合うことで顔なじみになり、昔の友人や、親戚を思い出す良いきっかけにもつながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は新興住宅地ではあるが、緑豊かで静かな環境である。3ユニットで構成されており、中廊下で繋がっている。入居者の行き来や災害時の誘導など連携が図れ複数ユニットのメリットが活かされている。ユニットとは別にふれあいホールがあり、水曜日と日曜日には入所者同士の交流の場や地域の集まりの場となっている。敷地内の園庭にはベンチの設置や散歩コースがあり、季節の花々に触れる機会も多く、ゆったりとしたホームである。
 事業所近隣地域に住む職員が複数在籍しており、地域内の行事参加や交流が図れている。管理者は職員との対話を心がけ、いつでも相談できる体制と入居者のケアの向上に向けて努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念唱和を行い、共有して実践につなげている。	2年に一度職員会議で見直しを行っており、笑顔で笑いの絶えない事業所を目指している。管理者は理念の共有に向けて職員へ声かけを行い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の夏祭りなどを行う際は、近隣の方を招待している。又、地域の春祭りや、音楽鑑賞会への参加を行っている。	自治会には加入はしていないが、自治会区域の職員の雇用があり、地域行事への参加案内など連携が図れている。事業所周辺の清掃活動も積極的に参加し、交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動を年数回行っている。 地域の小・中学生を対象にキャラバンメイトを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の中で毎月の活動報告を行い、評価、アドバイスを頂いている。又、地域の方々の情報を得てサービスの向上に活かしている。	管理者は会議出席者への事前の日程調整を行い、資料も写真等を使い見やすい工夫を行っている。自治会との情報交換もできており協力体制に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括の方にも参加してもらいサービス内容について助言や各種情報を得ている	市の担当課へも電話相談や窓口へ出向き、制度上の相談やアドバイスを得られ、協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員の身体拘束の勉強会を行い、周知している。できる限りの施錠を行わないように取り組んでいる。	やむを得ず玄関を施錠する事もあるが、管理者は施錠しない取り組みについて職員研修を行っている。2ヶ月に一度身体拘束を行わないケアについて、事例に基づいて全職員で検討会を実施して身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会で学んでいる。各職員同士お互い注意し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会がないため、活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	人居時に契約書、重要事項説明書にて、説明を行い、十分に理解と納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望箱を玄関先に設置している。ご家族様の面会時に話をし要望を聞いている。	要望箱への投書は少ないが、面会時に直接要望等を聞く時間を作っている。遠方の家族へも電話連絡にて意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて、意見や提案を聞いている。個々の面談も行っている。	職員の要望する備品の購入や起案の必要なものについては管理者が対応して法人へ相談している。職員個々の面接の機会も設け意見を聞き、困りごとへの対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革で時間給昇給や、介護職員処遇改善手当支給など、環境を整えている。又、子育て世代の方が働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に勉強会や、研修がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者との交流は殆どない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階から、本人が困っている事などを聞いている。又は、サマリーなどからくみ取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や、担当者会議、面会時に家族の要望を聞き、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用できる様、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に合った手伝いをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設便りで家族参加の行事を案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人などの面会があるときは場所の提供などを行っている。	外出は家族の協力を得ながら、理容室や墓参りを行っている。地域内の祭りや行事への外出により馴染みの人と会う事もある。入居者や家族に希望を聞いて買い物や近くの図書館への外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで交流を図っている。認知度が進みコミュニケーションがとりづらいご利用者様が増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時は、いつでも相談できることを伝えている。契約終了後の相談は今のところない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、発言などから把握しモニタリングを行っている。	法人で統一されたアセスメントシートを用いて、意向の確認や家族より聴き取りを行い把握はされているが、暮らし方や生活歴、本人の言葉などの記述が少ない。	アセスメント様式の項目が記入されるように認知症の人のためのケアマネジメント方式の記入要領を参考として、入居者の思いや希望に沿った支援ができるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞く、又は基本情報、サマリーなどから今までの生活歴把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表や個人記録等で個人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の職員会議や担当者会議、モニタリング等で意見交換を行っている。	毎月モニタリングを実施し、遠方の家族へは電話連絡で状況を伝えている。状況に変化があればその都度計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや個人記録などで、情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様1人1人の要望に可能な限り応えている。又は、こちらから引き出せる努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が入居者様の状態を時折聞かれたりされる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する際は、出来る限り家族に同伴、又は付き添いをして頂いている。病状に応じて専門機関との連携を持ち支援している。	受診の際は、家族の協力を得て基本的には協力医療機関への受診を行っている。専門機関へ受診が必様な場合はホームで対応する事もある。夜間の往診体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師に状態を診て頂いている。医療連絡ノートなどで情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時状況確認、面会に行っている。又病院側と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、看取りに関する指針を説明して同意を頂いている。看取りの勉強会を行い、職員全員で把握している。又、早い段階から家族との話し合いを行っている。	重度化、看取りの指針を基に契約時に説明を行ない、早い段階から医師も含めた説明を行なっている。職員会議を利用して看取りや重度化に対する勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練実施はしていないが、事故時や急変時の対応の勉強会を行っている。緊急時は看護師、又は、かかりつけ医に指示を受けて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練は行っているが、日中想定のみ。夜間想定は行っていない。地域との協力体制は築けていない。最近では土砂災害の避難訓練を行い、全ご利用者様を近くの同施設へ移動を行った。	近隣の同法人施設と協力して避難誘導体制、連絡網が作成されている。夜間想定は避難訓練は実施計画が立ててあり、開催予定である。訓練には公民館長は出席するが、地域住民の参加は出来ていない。	運営推進会議を活用して、地域住民への声かけを行い協力体制を作り、消防団や地域住民との協働のもとで訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛け目と目を合わせ話をする事を心掛けている。	声かけについては、職員間で手本となる職員の事例を基に勉強会を行っている。管理者も自身で勉強したコミュニケーション技術を定期的に職員へ伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の困難な方は、行動や表情から思いをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせた生活が出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が判断できない方は職員がその方の趣向を考え支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っている。エプロンの準備をご利用者様に手伝って頂いている。	クックチルシステム(加熱調理後に急速冷却し、再加熱し提供)を導入しており、準備は職員が行っている。おやつ作りは入居者と一緒を実施しており、パン食を好む方へは希望に沿うようにパン食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録をしている。その方に合った食事形態で提供している。食事、水分摂取量の少ない方は、本人の好きな物をご家族様より差し入れして頂いている。(パン・ジュース・ヤクルト)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1回、歯科医の訪問診療を実施しており、一人一人の口腔状態、口腔ケアのアドバイスを頂いている。毎食後の口腔ケアは声掛け支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行い、誘導を行っている。	排泄記録表を用いて定期的に誘導、介助を行っている。夜間はベッドサイドにポータブルトイレを置いて対応している。トイレでの排泄を促す為の支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を取り予防に努めている。排便の確認が難しい方には声掛けを行い確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせての支援は行えていないが、週3回の入浴は実施している。入浴が困難なご利用様は清拭で対応している。	入浴は日曜日以外の週3回を基本としているが、希望者へは回数を増やすように努力している。体調に応じて清拭で対応する事もあり、個別で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様に合わせ休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は定期薬と一緒に届いている。確認を行い用法や用量について理解している。服薬は職員が直接手渡しし、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様に合わせ、散歩やお庭の草取り、菜園作りなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、ご家族様と出かけられるご利用様はいらっしゃる。施設では、地域の祭りや近くの梅園へ毎年出かけている。又、施設内の庭でお茶会などを楽しんでいる。	敷地内の散歩や地区の祭りや梅園などの季節感を感じられる場所へ出かけている。買い物などの外出も交代で希望に沿うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は紛失の心配がある為ご家族に管理して頂いている。御利用者様が買い物希望される時はご家族様へ連絡し支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時には、いつでも電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保てるよう心掛けている。ソファなどの位置を変えて工夫している。季節のしつらえを実施している。	廊下やホールにソファがありゆっくりと座り、職員と会話ができる空間作りに努めている。温度・湿度管理にも気を使い、建物内での温度差を失くす努力をされている。エアコンや扇風機の風が直接当たらないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し皆様と会話出来る様にしている。又、リビングの畳でテレビを鑑賞できる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを配置するようにしている。	家族に馴染みの家具などの持ちこみをお願いしている。畳の部屋とフローリングがあり入居者の生活に合わせて布団で対応されている方もいる。記念の写真や賞状などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有の場(トイレ、台所、浴室)には、標識がありご利用者が分かるように工夫している。		